

八大学工学系連合会分科会報告
第1分科会：博士フォーラム

博士学生の声と意識

2022年度八大学工学系連合会 博士フォーラム報告



実行委員長・京都大学工学研究科副研究科長 杉野目道紀

第5回八大学工学系連合会公開シンポジウム（東京大学伊藤国際学術研究センター）
2023年3月22日（水）

博士フォーラム

博士学生の交流を促進すること、さらには教育改革への反映をねらいに博士学生の意見を聞くことを目的として2004年度から8大学持ち回りで毎年実施。

- 2019年度(11月) : 名古屋大学 (対面)
- 2020年度 (12月) : 東京工業大学 (オンライン)
- 2021年度(12月) : 北海道大学 (オンライン)
- 2022年度 (12月9日) : 京都大学 (ハイブリッド)

新型コロナの状況を注視しながら、3年ぶりの対面会議とし、オンライン参加も可能とするハイブリッド開催とした。八大学関係者に加え、本取り組みに関心を持つ他大学、企業関係者の聴講も可とした。

連合会と幹事校の協力のもと、学生委員（幹事学生・協力学生）が中心となって運営。

幹事学生：京都大学工学研究科各専攻から13名(D1-D3)
協力学生：7大学から14名 (D1, D2, およびPD)

登録者（158名）内訳

- ・対面出席（幹事学生、協力学生、八大学教員他）：65名
- ・オンライン出席（北大3、東北大8、東大25、東工大22、名大4、阪大5、京大16、九大8、広島大1、日本大1）（教職員31名、学生62）：93名
- ・参加総学生数における内訳（学部生7名、修士学生21名、博士学生74名）

実施内容

担当副研究科長（岸田・杉野目）、幹事校事務部をアドバイザーとし、各専攻から選出した幹事学生による幹事会を編成

幹事学生によるテーマの設定

2019年度（名古屋大学）「博士がこの先、生き残るには？」

2020年度（東京工業大学）「博士学生が楽しく研究生活を送るためには何が必要か」

2021年度（北海道大学）「博士学生のキャリアプランを考える」

2022年度（京都大学）「日本が描く博士の未来～博士号取得者をどうしたいのか～」

【フォーラムの主旨】

雇止めや任期付き教員が広まると共に、日本の国際的な学術競争力の低下が現実となりつつある中、我が国として博士号取得者にどのような進路・活躍を望むのか、そしてそれを実現するために具体的にどのような方策を取っているのか、行政と産業の観点から講演していただきます。

また、合わせて公開ディスカッションを行うことで、研究現場の生の声を届けるとともに、聴衆である現役の博士課程学生や、博士課程への進学を考える方々のモチベーション向上を図ることも意図しています。

これまでの博士フォーラムは、博士学生側からの視点で「何にどう取り組むべきか」議論する場としていたが、少し視点を変えて、日本の社会が何を望んでいるのか、感じ取る場としたいとの学生の意向。

実施内容

2022年12月9日（金）午後1時より 京都大学桂キャンパス 船井哲良記念講堂

基調講演（各40分）

・文部科学省 高等教育局専門教育課企画官 **鈴木 顕氏**

「我が国の未来をけん引する博士課程学生への期待について」

・三菱電機(株)開発本部技術統轄／(一社)産学協働イノベーション人材育成協議会（C-ENGINE）理事 **古藤 悟氏**

「日本が描く博士の未来～産業界で博士号取得者をどうしたいのか～」

パネルディスカッション（90分）

・文部科学省 **鈴木 顕氏**

・三菱電機(株) **古藤 悟氏**

・工学研究科長／教授 **榎木 哲夫** ・(株)EXELIM 代表取締役 **飯田 和則氏**

・(株)住化技術情報センター代表取締役社長／日本学術会議第三部会会員 **関根 千津氏**

ファシリテーター 京都大学総合博物館准教授 **塩瀬 隆之**

パネリスト各位には以下の話題についてお考えをご披露いただくよう依頼した。

- ①国際的な活躍のために博士号が役に立つ場面・海外での博士人材に対する価値認識
- ②日本社会における博士号の価値認識の低さ
- ③各パネリストが属する業界における博士人材の理想像・これからの博士人材に期待すること

グループディスカッション（60分）

グループ1 テーマ「企業で活躍する博士人材とは」（古藤氏、関根氏）

グループ2 テーマ「海外・起業を見据えて博士号取得者に必要なこととは」（飯田氏）

グループ3 テーマ「アカデミアでやりたいこと、アカデミアだからできること」（塩瀬氏）

クロージング（30分） ディスカッションまとめ

内容のまとめ

企業／社会は本当に博士号取得者を求めているのでしょうか？

国際競争にうち勝つ産業高度化には博士人材の活用が必須

海外での企業活動には博士号保有が圧倒的に有利

博士号の有無でなく、博士号を取る過程で得た経験、深い専門性、広い視野、スキルが重要

学士、修士と比べて、博士号取得者は採用後に企業から「期待を上回った」と回答が得られる割合が高い

文科省

博士学生への支援は強化されていくのでしょうか

学振特別研究員事業に加え大学FS創設・SPRING事業やRA支援の充実により支援強化を進めている

文科省

ジョブ型インターンシップ（文科省）・C-Engineインターンシップ等、産学の接続を重視したプログラムの一層の拡充

文科省・C-Engine

内容のまとめ

そもそも初任給の多寡だけを見て就職先を選ぶわけではない

博士課程学生

博士修了者の初任給を大幅に改善すべき

大学

企業入社後は自分の究めた専門分野にしがみついて研究をさせて欲しいわけでもない

博士課程学生

現状では博士修了者だからといって一律に初任給を上げるのは難しい

企業

企業にとって必要な研究課題で一定のリーダーシップを持たせてくれるかどうかを重要視する

博士課程学生

勤務年数が上がるにつれ、博士の平均年収は修士卒より大幅に向上するデータがある

企業

博士課程で得た経験、深い専門性、広い視野、スキルが企業における活動で自然と活かされ、さまざまな場面で責任ある立場に立つ機会が多くなり、結果として高く処遇されるスキームは既に存在する。

しかしながら、そのスキームは多くの企業で明確に認識されておらず、大学院生にも伝わっていない。

産業界・大学・国の協力のもとで、大局的な観点から博士学生をじっくり育てる環境整備を！一刻も早く！